

2021年2月25日発行

# 地域と協同の 研究センターNEWS

## 198号

### 第17回東海交流フォーラムを終えて

佐藤圭三（生活協同組合コープぎふ・岐阜地域懇談会世話人）

第17回東海交流フォーラムが、多くの方のご協力とご参加で無事に開催されました。歴史と到達点を振り返り、これからの課題を考える貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。

今回はコロナ対応のため初めてのオンライン開催となりましたが、研究センター事務局長の渡辺さんに岐阜会場でサポートしていただき、総合司会の堀部さんを盛り上げて、岐阜会場全員で協力しあって運営することができました。岐阜地域懇談会では、第一部の基調リレートークのNPO法人 仕事工房ポポロの中川理事長のビデオメッセージづくりと、第二部の記念企画の飛騨市都竹淳也市長の講演、コープぎふ松原滋さんの取り組み報告への関わり方について、4回の世話人会を開催して検討してきました。実行委員会や常任理事会・理事会で協議された開催計画をもとに率直に意見交換して内容を少しずつ固めていきました。限られた期間の中で、自分たちの課題として納得できるよう論議することができた実感があります。

#### ●地域懇談会で大事に考えたこと

全体の企画については、記念の企画だからといって、あまり盛りだくさんの内容や登場人物になってポイントが曖昧になるよりは、これまでの研究センターの歩みを確かめ、これからの目標を深く考えられる機会にしてはどうかと意見を発信すると同時に、岐阜の担当セクションについても同じ考え方で検討するようにしました。

基調リレートークは、仕事工房ポポロの中川理事長のビデオメッセージに絞り込みました。10分間という限られた時間の中で、コロナ禍におけるポポロの現状と、コロナによって浮き彫りになった地域や社会の課題、そして「ポポロオンライン居場所」の取り組みなど、今後の可能性まで示唆に富んだお話をしていただくことができました。同時に、岐阜地域懇談会の15年間の歩みや到達点を私たちが確かめ、今後の活動を考えるヒントもいただけたと思います。

午後の記念企画では、人口減少・過疎化の進行に対して、行政がリーダーシップを発揮して、ひろく住民参加型の地域づくりを施策として進めている飛騨市の都竹市長に講演いただき、それに関わって、住民はどんなことができ、どんな可能性を持っているのか、そして生協が担える役割などを考える上で、地域複合サロンに4年間関わってきた松原さんに実践報告をお願いしました。コロナに負けずに動き始めた新しいサロンの事例や、「オンラインサロン」の構想に勇気を

【2頁につづく】

#### 研究センター 2月の活動

8日（月）第9回常任理事会	21日（日）第7回共同購入事業マイスターコース・修了式
12日（金）第4回組合員理事セミナー	24日（水）三河地域懇談会世話人会
13日（土）第17回東海交流フォーラム	27日（土）「核兵器禁止条約」発効と市民社会の役割
19日（金）第8回協同の未来塾	28日（日）「友愛・協同」セミナー・第4期研究奨励助成報告会

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、引き続き予定していたさまざまな活動を自粛しています。

目次	第17回東海交流フォーラムを終えて	1	第17回東海交流フォーラムの報告	4
	佐藤圭三		情報クリップ	6
	自治・自立、協同と協働のまちづくりをめざして	3	書籍紹介「甘いバナナの苦い現実」	8
	八木憲一郎		石井雅子編著	

<巻頭言：1頁よりつづく>

もらいました。「よらまいか」の意味を改めて教えていただいた気がします。

#### ●2021年度の活動にむけて

岐阜地域懇談会では、昨年秋に岐阜県恵那市中野方地域の坂折棚田を訪れ、棚田の現状を知るところを起点に、棚田保存会の方をはじめとして、中野方地域のいろいろな方のお話を聞くところから研究を始めています。今回の東海交流フォーラムでの気づきを活かして、2021年度の活動をみんなですすめていきたいと思えます。

(さとう けいぞう)

## 自治・自立、協同と協働のまちづくりをめざして

八木憲一郎（三河地域懇談会世話人会）

愛知県三河地域は、岐阜県・長野県からつらなる山々、矢作川・豊川などの豊かな水、三河湾・太平洋へと続く緑あふれる里など、自然環境に恵まれた地域です。私たち三河地域懇談会では、そんな三河の自然・文化・歴史や産業から学び、持続可能な地域・暮らしについて語り合ってきました。今回の東海フォーラムでは、「市民が主役のまちづくり」に取り組む新城市の実践を学び、「粋な古い支度」「豊橋生協会館に寄らまいかん」等の取り組みをもう一步進めたい、と相談・準備してきました。

穂積市長の講演では、参加した多くの方が、市民が主役のまちづくりの理念・政策と協同組合のアイデンティティが深いところでつながっている、という感想を持たれたと思います。生協で学んだ「自立と協同、参加と民主主義」が市民によるまちづくりの実践のなかで息づいていることに勇気づけられた方もいるのではないのでしょうか。1999年の地方自治法の改正と地方分権改革、北海道二セコ町の「市民主役、参加と協働、情報公開」を柱とする自治基本条例の制定（2000年）などのお話に、改めて「地方の時代」について考えた人もいるかもしれません。市民の一人として新城のまちづくり実践に取り組んできた（いる）生協組合員の前澤さん、地域のために何かやりたいという市民の思いを具体的な活動へとつないできた市職員の松下さん、それぞれの報告からも多くのことを学びました。

「『豊かな社会』とは、多様な価値観を認め合い、多様な選択肢に誰もがアクセスでき、自分なりの人生・価値観を実現できる、そんな社会であり、社会全体が一つの大きな協同組合のような」と穂積市長は話されました。「豊かさ」を開拓するテーマは、コロナ後に求められる「新しい豊かさ」ともつながるように思えます。地域の中にたくさんの「〇〇寄らまいかん」ができ、多くの市民が集い、粋な古い支度を語り合い、互いに支え合いつなげて、人も地域も輝くまちが、三河の各地にできるように、三河地域懇談会の活動を広げたいと思えます。「住民が主役」という理念とその実現に向けた努力が語られ、共感のエールが交換された「2つの実践報告・交流」の学びを、これからの活動に生かしていきたいものです。

(やぎ けんいちろう)

第17回東海交流フォーラムは、2021年2月13日（土）に、地域と協同の研究センター設立25周年・法人化20周年の記念事業として開催されました。当日は、コロナ禍により緊急事態宣言が発出された中での開催となり、感染症拡大防止のため、オンライン参加を呼びかけ、zoom又はYouTube配信で参加できるようにしました。また岐阜県で一会場（コープぎふ各務原支所）、愛知県で二会場（ウインクあいち1001・コープあいち豊橋生協会館）、三重県で一会場（コープみえ本部会議室）の4会場をつないで開催しました。この4会場には78人が参加し、オンラインでは70人以上の参加がありました。

今回は巻頭言として岐阜地域懇談会、三河地域懇談会で準備してきたこと、当日の内容を振り返りながら、今後の活動として考えていることをご紹介します。（事務局）

**第17回東海交流フォーラムの報告**

よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり！

ひとりが変われば、未来が変わる。

わたしやあなた、ひとりひとりが地域を変える。社会を変える

文責：事務局 大島三津夫

岐阜会場（コープぎふ各務原支所）に参加する堀部智子理事の司会で10時に始まりました。地域と協同の研究センター鈴木稔彦代表理事（コープみえ理事長）から開会の挨拶があり、第一部では、研究センターに関わってこられた個人・団体（東海交流フォーラムで報告いただいた個人・団体）からリレー方式で現在の取り組み・課題などを紹介いただきました。第二部では、記念企画として「新しい市民社会に向かって～持続可能な地域社会（コミュニティ）を目指して～」をテーマに、お二人の市長の講演があり、未来・これからを考え合いました。ここでは簡単にその内容をご紹介します。



会場：ウインクあいち 1001

**第一部****基調リレートーク**

基調リレートークは三重会場（コープみえ本部会議室）から、妹尾成幸（せのお しげゆき）常任理事の進行で進められました。基調リレートークは、4つの地域懇談会（尾張・三河・三重・岐阜）から、その到達点とこれからをテーマに、紹介いただきました。

- ①尾張地域懇談会：オンラインの参加でNPO法人エム・トゥ・エムの服部悦子さん、弓谷由子さんから尾張地域の市民活動の事例として、エム・トゥ・エムの立ち上げから、その後の歩みの紹介がありました。
- ②三河地域懇談会：豊橋生協会館から、世話人の天野眞知子さんが、三河地域懇談会の歩みと、テーマとしてきたこと、近年主催し開催している「豊橋生協会館へ寄らまいかん」の紹介、コロナ禍での取り組みでオンラインに挑戦していること等の報告がありました。
- ③岐阜地域懇談会：コープぎふ各務原支所から、世話人の福井千代子さんが報告の主旨を紹介し、第14回東海交流フォーラムで岐阜地域の活動として報告いただいたNPO法人仕事工房がポロ代表中川健史さんから、その後の活動、コロナ禍での取り組み等を紹介いただきました。
- ④三重地域懇談会：第14回東海交流フォーラムで報告いただいた多文化共生ネットワークエスペランサの青木幸枝さんから、報告後の活動、特に今回の新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの人が生活面でも、精神面でも追いつめられている現状について紹介いただきました。
- ⑤三重地域懇談会の歩みと地域の中でのともにくらししていくこと（多文化共生）：基調リレートークの最後に、三重地域懇談会世話人会の大村洋子さんからくらしを支えあうネットワークづくりを考えるをテーマに、「新しい市民社会にむかって、いまこそ持続可能な地域社会への機会に」と今後の活動について紹介いただきました。

参加された方の感想をご紹介します。

基調リレートークは大変刺激になりました。どの方の報告も地域や社会のために貢献している活動ばかりでした。私が地元で住み慣れた地域でやってみたい事ばかりです。なかなか実行に移せませんが、今、私なりに考えています。すごく参考になりました。

**関係者挨拶** 地域と協同の研究センター団体会員のお二人からご挨拶がありました。

◆藤井恵里さん（愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会代表、ワーカーズコレクティブ・ネットワークジャパン代表）

◆前田健喜さん（JCA 日本協同組合連携機構・主任研究員）

**感謝状贈呈**

1995年の設立の中心になられたみなさまへ感謝状が贈呈されました。(※肩書きは設立時)

研究センター長 野原敏雄様 (中京大学教授、生協総合研究所理事)  
 代表委員 有本信昭様 (岐阜大学講師、岐阜県協同組合間提携推進協議会幹事会座長)  
 代表委員 高橋 正様 (愛知大学教授、めいきん生協・みかわ市民生協理事長)  
 代表委員 田辺準也様 (東海コープ協議会代表幹事、めいきん生協副理事長)  
 代表委員 丹生久吉様 (故人)  
 (三重大学名誉教授、みえきた市民生協・三重県民生協理事長)  
 代表委員 水野隼人様 (東海コープ協議会副代表幹事、岐阜地区市民生協理事長)  
 事務局長 橋本吉広様 (東海コープ協議会職員)  
 豊橋生協会館から高橋正様、コープぎふ各務原支所から水野隼人様、ウインクあいちから田辺準也様、橋本吉広様、オンラインで野原敏雄様から挨拶がありました。

**第二部 記念企画「新しい市民社会に向けて～持続可能な地域社会(コミュニティ)を目指して～」****■飛騨市の取り組みと実践を学び、ともに考え合う：市長講演と実践報告・交流Ⅰ**

飛騨市市役所からオンラインで岐阜県飛騨市・都竹淳也(つづく じゅんや)市長の講演と松原滋さん(コープぎふ職員)の報告がありました。

飛騨市の都竹淳也市長からは4つの課題に取り組んでいることの報告がありました。4つの課題とは①買い物の対策、②外出の対策、③雪またじ(飛騨弁で雪下ろし・除雪のこと)、④食事の対策(バランスのいい食事がとれなくなる)でした。

参加された方の感想をご紹介します。

「都竹市長のお話が印象的でした。人口減少について、対策するだけでなく受け止めるところから、実践している様子とその姿勢について学ぶことができました。数字的や論理的に考えるだけでは何の解決もしない。目の前で困っている事を知り、それを助けることが大切とお話され、その通りだと感じます。」  
 「こまり感の共有(都竹市長の言葉)」から連帯が生まれる。「こまり感の共有」をしようとしたのが、新城の自治基本条例制定であり、その後の活動だと腑に落ちました。」

コープぎふ職員の松原滋さんからは、飛騨市北部での地域複合サロンのこの間の経過報告がありました。

**■新城市の取り組みと実践を学び、ともに考え合う：市長講演と実践報告・交流Ⅱ**

コープあいち豊橋生協会館から愛知県新城市・穂積亮次(ほづみ りょうじ)市長の講演があり、コープあいち組合員の前澤このみさんから取り組みの報告がありました。

新城市の穂積亮次市長からは住民主役のまちづくりの考え方について紹介がありました。

2005年に市長に就任し、今4期目で、市民、住民が主役と自治基本条例のつくり、その条例をいかす仕組みをつくってきたこと等の報告がありました。

参加された方の感想をご紹介します。

『『世代がバトンをリレーする』『市民が主役のまちづくり』『自治基本条例をいかすしくみ』の中で、実動性の確保として市民自治会議を設置して、年齢やくらしの背景が違う人が集まって協働できたことはすばらしいと思います。』

「市民が主役のまちづくりのお話はとても良かったです。福祉円卓会議、地域福祉条例、とても楽しみです。新城の歴史や地域、人の力を生かすという市長の話も共感しました。住民自治の実践が広がってほしいと思いました。」

コープあいち組合員の前澤このみさんから、市民としての新城市での実践の紹介があり、市役所職員の松下領治さんから、新城市では地域自治区制度で地域協議会が10自治振興事務所ごとにあり、地域の課題を検討していることなどの紹介がありました。

**第17回東海交流フォーラムのまとめ**

最後に、大坪光樹理事(研究センター理事・生活協同組合コープぎふ理事長)、森政広理事(研究センター理事、生活協同組合コープあいち理事長)からまとめの挨拶がありました。

# 情報クリップ

co-opnavi 2021.2 No.825

## 店舗をフィールドにした生協の地域貢献

日本生活協同組合連合会 2021 年 2 月、A 4 判、36 頁、367 円

<コープ商品のある風景>

CO・OP ひじきドライパック (国産芽ひじき使用)  
京都生協 組合員 臼杵舞衣さん

特集

店舗をフィールドにした生協の地域貢献

<今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見>

ならコープ 西川ゆかりさん

<想いをかたちにコープ商品>

CO・OP 野菜たっぷりドレッシング  
ごま油&香味野菜

<生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP 商品>

CO・OP 手包みピッツア ジェノバーゼ

<商品と向き合う 私たちの仕事>

コープ九州事業連合 商品本部  
農産商品部 農産加工センター

<ZOOM IN 生協の店舗づくり>

コープみらい コープ府中車返店

<日本全国宅配現場におじゃまします!>

コープさっぽろ コープこうべ エフコープ

<組合員の助け合い活動>

コープみえ

SDG s REPORT

パルシステム連合会

<明日の暮らし ささえあう CO・OP 共済>

コープやまぐち

<この人に聴きたい>

俳優

高良健吾さん

<ほっと navi>

生協くまもと コープおきなわ

## 月刊 J A 2021.2 vol.792

全国農業協同組合中央会 2021 年 2 月、A 4 判、48 頁、年間予約 5,204 円 (消費税込)

### スゴイ農業、スゴイ J A

#### J A 自己改革の現場から

「環境保全米運動」に見る

持続可能な農業と地域社会づくり

ー J A みやぎ登米 (宮城県) の取り組み

高橋良晴

#### J A ・農政トピック

令和 3 年産の米生産について考える

ーコロナ禍の中、

今後の需給見通しを踏まえた取り組みを

J A 全中 農政部 水田・畑作農業対策課

きずな春秋 ——協同のこころ——

童門冬二

#### 展望 J A の進むべき道

金融再編とデジタル化の動向

山田秀頭 (J A 全中常務理事)

#### 私のオピニオン ①

ドリアン助川

#### 私のオピニオン ②

小島慶子

J A 全中マンスリーレポート 1 月

#### 協同組合と SDGs 第 21 回

労働者協同組合法 ①

中野 理

#### 協同組合の広場

(日本生協連、J F 全漁連、全森連、パルシステム)

ユニークな若手農業者を YouTube で紹介!

毎週日曜日 18 時配信! 全国各地の“農 Tuber”!

J A 全中 広報部 広報課

海外だより [D.C. 通信] 連載 116

新型コロナウイルスは農村部に深刻な影響をもたらしている

伊澤 岳

令和元年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介

農林中央金庫理事長賞

組合員と地域に寄り添った組合へ

大内直也 / J A 横浜 (神奈川県)

ブラジル・コチア産業組合中央会記念賞

選ばれる J A で在り続けるために

宇高正人 / J A おちいまばり (愛媛県)

「男女共同参画」が大事な理由

社会を変えるのはあなたです

藤井和佐

農家のお嫁さんを演じて 農業の「大切な役割」を実感

大原櫻子

**生活協同組合研究 2021.2 No. 541**  
**認知症高齢者の生活支援 —資産管理をめぐる課題と支援体制—**  
 公益財団法人 生協総合研究所 2021年2月 B5判 68頁 500円(税別)

■巻頭言

就職氷河期から新型コロナ禍世代へ 宮本みち子

特集 認知症高齢者の生活支援

—資産管理をめぐる課題と支援体制—

長寿社会における認知機能低下と

金融ジェロントロジーの可能性 駒村康平

認知症の人の意思決定能力とサポート体制

樋山雅美・成木 迅

成年後見制度の利用促進における市民後見の意義

上山 泰

高齢期の認知機能低下に関連した金融サービス

八谷博喜

協同組織企業である信用金庫の高齢者福祉

吉原 毅

老後の生活をサポートします。

—福祉クラブ生協の成年後見サポーター—

五十嵐恭子・仙田みどり・井上文栄・佐々木肇

■新型コロナウイルスへの各国生協の対応 ⑧

シンガポールのCOVID-19とフェアプライス生協 鈴木岳

■本誌特集を読んで(2020・12)

當具伸一・阿部文彦

■書評

税所真也著 『成年後見の社会学』

大貫正男

■新刊紹介

高橋均著 『競争か連帯か—

協同組合と労働組合の歴史と可能性』

鈴木 岳

■研究所日誌

●2020年度公開研究会 (2月~3月)

・感染予防体制下での子どもの貧困 (2/12)

・新型コロナウイルス感染拡大前後の生協利用の変化

(2/26)

・生協総研賞第17回助成事業論文報告会 (3/5)

●第13回生協総研賞「表彰事業」候補作品推薦のお願い

**にじ 2020 冬号 No. 674**

**協同の視点から森林政策を問い直す**

一般社団法人日本協同組合連携機構 2020年12月 B5判 86頁 1,600円(税込)

オピニオン

●協同組合間提携で新たな価値を生み出す 比嘉政広  
 (日本協同組合連携機構 代表理事専務)

特集企画

**協同の視点から森林政策を問い直す**

○特集解題 早尻正宏 (北海学園大学 准教授)

○森林組合が森林所有者と

利用者の森林協同組合に脱皮する道

菊間 満 (山形大学 名誉教授)

○林政転換期における

森林組合の林産事業と労働力

都筑伸行 ((国研) 森林総合研究所 室長)

○森林組合の現状と課題 ~森林組合の現場から~

鈴木春彦 (北海道大学大学院農学院)

○森林政策の転換期における森林組合系統の対応

佐々木太郎 (全国森林組合連合会 監査部長)

○コープさっぽろでの取り組み

~コープ未来(あした)の森づくり基金~

酒井恭輔

(生活協同組合コープさっぽろ 組織本部/基金事務局長)

○お魚殖やす植樹運動

中村信哉

(北海道漁業協同組合連合会 環境部)

[連載] 世界の協同組合研究

○サスカチュワン大学の協同組合研究センターの歩み

マーク=アンドレ・ピジョン

(カナダ・サスカチュワン大学協同組合研究センター (CCSC) 所長

翻訳: 日本協同組合連携機構 客員研究員 和泉真理)

[書評]

○熊谷晋一郎著

『当事者研究~等身大のくわたし>の発見と回復』

2020年(岩波書店)

~言葉を取り戻しながら、社会の共同創造

(Co-production)の担い手となるために~

田中夏子(協同組合研究者)

○斎藤修編著

『フードバリューチェーンの国際的展開』

2020年(農林統計出版)

和泉真理(日本協同組合連携機構 客員研究員)

[協同のひろば]

○JCAによる協同組合連携推進の取り組み

日本協同組合連携機構 協同組合連携部

編集後記

菊地 登 (編集発行人)

文化連情報 2021. 2 No. 515

地域医療構想の再協議進めて  
地域にねざす厚生連病院を展望

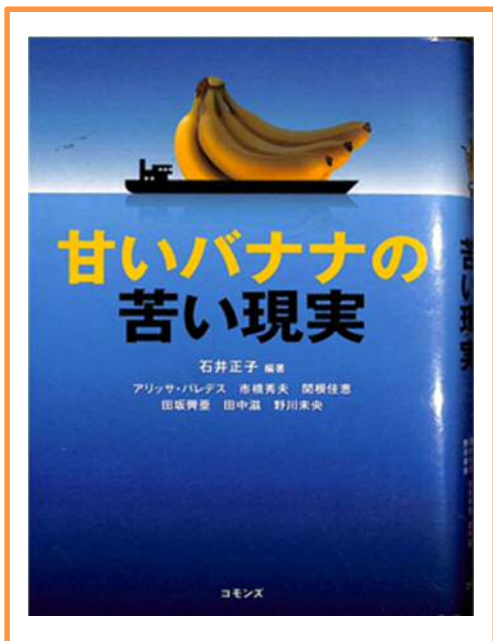
日本文化厚生農業協同組合連合会 2021 年 2 月、B5 判、96 頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 \*注

農協組合長インタビュー (70) 地域と繋がる農協として 厚労省に再度要請「医療物資等の要望書 2」を提出 新型コロナ対策「特別アピール」に関する 情勢および実践状況 西出健史	門脇 孝	国民が安全安心に暮らせる社会の構築 (6) 分野を超えた連帯へ —社会的経済による社会サービス拡充を— 友岡有希
二木教授の医療時評 (187) 全世代型社会保障検討会議「最終報告」と 財政審「建議」を複眼的に読む 二木 立		野の風 三女の未来と農福連携 山下 快
誌上開催 第 22 回厚生連医療を考える研究会 院長ディスカッション 地域医療構想の再協議進めて 地域にねざす厚生連病院を展望 矢澤正信・奥村明彦		多様な福祉レジームと海外人材 (33) コロナで職を失った人に対する行政サービス申請支援 安里和晃
誌上開催 第 22 回厚生連医療を考える研究会 医療政策の方向性を踏まえた戦略的病院経営 (下) 井上貴裕		臨床倫理メデイエーション (48) 終末期の意思決定と倫理対話 中西淑美
新連載 あるべき新型コロナウイルス感染症対策 (1) 「らい予防法」による人権侵害の歴史 岡田行雄		アフガニスタンから見た世界と日本 (9) 新米国政権 (バイデン新大統領) の 戦略に期待すること レシャード カレット
離島へ薬をドローンで配達 オンライン診療とオンライン服薬指導後の 医薬品搬送を想定した無人飛行ロボットの 実証実験を実施 田實直也		デンマーク & 世界の地域居住 (140) ボランティア活動の新しい広がり 松岡洋子
アメリカの医療政策動向 (7) 包括予算法の成立と新しい経済対策の概要 高山一夫		熱帯の自然誌 (59) 熱帯の果物 安間繁樹
変わる日本のまちづくり (8) 福祉でまちづくり：本別町 20 年の軌跡 杉岡直人 ・ 畠山明子		ドイツの介護保険制度 (16) フーフェラント高齢者総合施設 ④ 高齢者は何を望みどう支援するか 小磯明
ドイツの対 COVID-19 戦略 感染減らず、独企業開発ワクチンと接種が頼みの綱に 吉田恵子		◆令和 3 年度介護報酬改定セミナー開催のお知らせ □書籍紹介 これで失敗しない 介護事業の経営・運営ノウハウ ◇単協の広報紙誌 ◇厚生連の広報紙誌 ▶線路は続く (150) 武蔵野線の風景から / 西出健史 ▶最近見た映画 声優夫婦の甘くない生活 / 菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介

熊崎辰広会員からの書籍ご紹介



「甘いバナナの苦い現実」石井雅子編著

アリッサ・パレデス・市橋秀夫・関根佳恵・田坂興亜・田中滋・野川未央著  
 四六判 388 ページ 本体価格=2500 円+税  
 発行 2020 年 8 月 出版社 コモンズ

<書籍紹介>

日本がバナナの輸入を自由化した 1963 年以前では、バナナはかなり高額であり、日常的には利用できませんでした。小学生の頃、友人の八百屋さんの家で、やや茶色くなったバナナの 1 切れを食べた記憶があります。それが次第に安くなっていった経過には、かなり複雑な背景と現地の労働者の搾取の現実がありました。1982 年に出た「バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ」鶴見良行著(岩波新書)では、「広大な農地がバナナの単作に転換され、有毒な農薬が農民の健康を蝕む」現実が突き付けられました。この問題からいち早く日生協が、現地の生産者と提携し、無農薬バナナの民衆交易を実現させています(1989 年)。

目次：序章 そんなバナナ！？——意外と知らないバナナの話 石井正子

第1章 ミンダナオ島で輸出用バナナが作られるようになるまで 石井正子

第2章 フィリピンでバナナはどう作られているのか

1 バナナ栽培に関わる企業と人びと——農地改革後の変化 石井正子

2 「高地栽培バナナ」の発見と山間部の変化 アリッサ・パレデス

第3章 バナナ産業で働く人たちの現実

1 輸出用バナナ産業の周辺で——収穫、梱包、運搬、廃棄バナナ利用 石井正子

2 正規雇用を求める労働者の闘い——スミフル農園の梱包作業所 田中滋

第4章 バナナ園の農薬散布——毒か薬か

1 バナナをめぐる農薬問題 田坂興亜

2 フィリピンの農薬空中散布反対運動 アリッサ・パレデス

第5章 多国籍アグリビジネスの再編と新たな「規制」枠組み 関根佳恵

第6章 バナナが食卓に届くまで——サプライチェーンの徹底解剖 市橋秀夫

第7章 私たちはどう食べればよいのか——エシカルな食べ方へ

1 公正な民衆交易を目指して 市橋秀夫

2 エシカルな食べ方へ 野川未央

地域と協同の研究センター3月の予定

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| 4日(木) 第9回協同の未来塾・修了式 | 13日(土) 第17回東海交流フォーラムまとめの会        |
| 5日(金) 第10回常任理事会     | 第4回理事会                           |
| 11日(木) 第5回組合員理事セミナー | 28日(日) 連続セミナー第3回「多文化共生とウェルビーイング」 |

※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS198号

発行日 2021年2月25日 定価 200円(税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 鈴木 稔彦

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail [AEL03416@nifty.com](mailto:AEL03416@nifty.com) HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>